

FWD調査業務 特記仕様書

1 業務目的

本調査は中野市管理道路（市道）の補修にあたり、FWD(Falling Weight Deflectometer)による舗装構造の詳細調査を行い、最適な補修断面の決定及び補修工法の選定の基礎資料とするために行う。

2 業務箇所

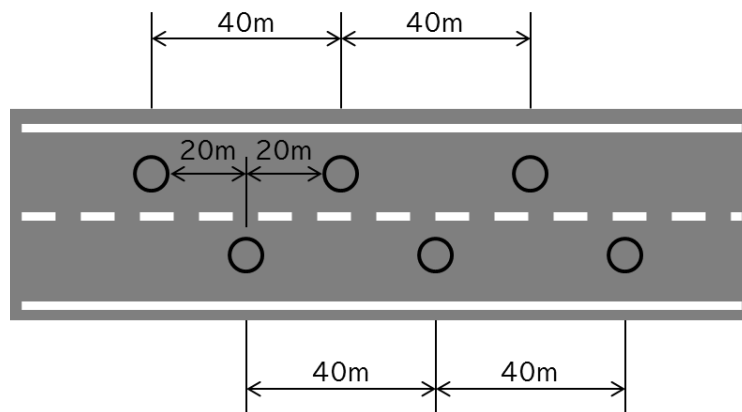
市内一円

3 業務内容

FWD調査 L = 7.70 km

N = 384 測点

- ① 調査路線、箇所については、設計箇所を基本とするが、調査時の現地状況によっては、協議により変更する。
 - ② 測定回数は1地点について4回とする。調査地点におけるたわみ量ならびに載荷重は最初の1回目のデータは破棄し、2回目以降のデータの平均を採用する。
 - ③ たわみ量測定に用いる載荷重は49kN(5tf)を標準とする。
 - ④ 測定項目は、測定日時、測定情報（路線名、車線、位置、距離）、載荷重、外気温度、路面温度及びたわみ量とする。
 - ⑤ 測定結果は即時確認し、異常のある場合は再測定すること。
- （参考）FWD調査の測点は、片側1車線40m間隔で2車線に千鳥状に配置する。（下図参照）



4 舗装構成の確認

- ① 既設舗装断面が解らない場合は、試掘調査により確認する。
- ② 試掘箇所は、監督員と協議のうえ決定する。

5 調査結果の解析

調査結果に基づき、現況の舗装構造の評価を行う。

評価方法は下記による。

- ① 調査結果からたわみ縦断図を作成する。
- ② 舗装全体の健全度を評価する。
- ③ 路床のC B Rを推定する。
- ④ 舗装体の残存等値換算厚（ T_{A0} ）を推定する。
- ⑤ アスファルト層は、計測した路面温度から 20°C に補正したたわみ量より、弾性係数を推定し評価する。

6 まとめ

調査結果及び分析結果を報告書にとりまとめること。

7 成果品

本業務の成果品は2部提出すること。

- ・ 電子データ（CD-R又はDVD-R）
- ・ その他発注者が指示するもの

8 その他

- ① 独立行政法人土木研究所における舗装たわみ測定装置（FWD）検定認定車両を用いること。
- ② 舗装構成の決定に当たっては、経済比較を行うこと。
- ③ 疑義が生じた場合は監督員と協議すること。